

# 群青かわら版

発行所：東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 学友会室  
群青編集委員会  
(C)群青編集委員会  
2004

## 部長さんへのインタビュー

たので、そういった意味でも今までとの違いに対応するのがとても大変でした。  
やはり嬉しいのは、ステージ後にお客様をお見送りする時でしょうか。

初めての一般公演を振り返っての感想をお聞かせください。

ただ人前で演技を見せるだけなら何でも好きなようにできるんです。でも、それを一つのまとまりにすることはとても難しい。メンバーがみんな私に賛同してついてきてくれたことには感謝したいです。

来年もこのような企画をしたいと思っているので、ぜひ足を運んでみてください。

(文責 岩城)

Passageのウェブサイト  
(イベント情報など)  
<http://www.lenis.info/~passage/>

## passage into public view

電通大のジャグリングサークル Passage。サークル棟付近で練習する彼らを見たことのある人は多いのではないだろうか。今年で活動を始めてから三年となるこの Passage ですが、去る五月二十九日に調布市グリーンホールで、ジャグリングステージ「Hop Step Passage」を企画しました。これは彼らにとって活動開始以来初めての学外公演との事。ステージの広告も、学内掲示やサークルのウェブサイトだけではなく、182(フリーペーパー)・市報・調布FM・たづくり・グリーンホール・食神と、大々的に行っていったようです。

今回の公演において特筆すべきは、屋内ならでの演出でしょうか。今まであまり見られなかった、照明などの視覚的演出は特に新鮮でした。面白かったものでは、天井から撮影した映像をステージの背景に投影するというもの。観客側からは見ることでできない上からの視点をスクリーンを通して見るのができ、またこれを効果的に使ったパフォーマンスは、「面白いことをやったなあ」とただ感心するのみでした。他にも機械製図を模したような演目のパンフレット等、理系学生ならではの遊び心がちりばめられているところ、またそれらが繋がって一つの大きな流れとしてステージが構成されているところが印象的でした。

一時間ほどのステージでしたが、学内のステージでは見られない彼らの新しい表現を堪能できる良い機会でした。

今回のステージを企画するに当たって、大変だったことやよかったことなどをお願いします。

今回が学外で行なう初めてのステージだったので、やりなれていない広報や事務といった、裏方的な作業は大変でした。どこでどのようなプロモーションをやれば人が来るかというのも工夫しなければいけませんでした。

演出に関しては、今回初めて照明での演出をやりました。音響は今までのステージでもやっているのが大丈夫だったんですが、照明はやりなれていなかったのが大変でした。今回は演劇部に協力して頂いています。やはりこれだけのものを作り上げるには、いかに打ち合わせをやるかが大事なんですね。

今まではずっと学内で学生を対象にしてやってきたところを、一般の方にも見ていただけるような形にし

# 世界の中心をトランス越えろ

## 学生運動の「今」

「ヘルメット」・「角材」・「アジ演説」・「全共闘」・「浅間山荘事件」。今さら説明する必要もないと思うが、これらは一九六〇～七〇年代に

ピークを迎えた学生運動のキーワードである。これらのうちいくつかは家族で食卓を囲っている時に親からいろいろと聞かされた人が少なくないのではないかと思つ。しかし聞くだけは聞くのだがイメージが湧かない。実は大学生を持つ親たちの大体が「浅間山荘事件」の時はまだ小中学生であり、大学に入ったときは既に下火で親自身も学生運動のことをよく知らないのである。大学を占領して騒がれた学生運動も、もはや文系の受験生の頭を数分間占領するだけに

とどまつている。(高校の日本史用語集には参考程度に「全学連・大学紛争・新左翼」と載っているだけに過ぎない。)それでは一体学生運動はいつなくなつたのであるのか？

その答えは「なくなつていない」である。それどころか、ついぞ最近になつて、にわかに活気を取り戻しているのである。

学生「運動」というのだから彼らの栄養となる「大義名分」が必要になつてくる。ここでいう「大義名分」とは何らかの政治・外交問題のことである。その昔は「冷戦」・「ベトナム」・「安保」と十分にあつた。そのようなものがなくなつてからようやく下火になつていくのである。実際にその後何らかの問題が起つてはポツポツと学生運動が行われたらしい。要するに問題が複数一度に上昇することによつて指数関数的に学生運動が勃発すると考えてよいと思われる。そして今、学生運動の栄養

となつているのが「国立大学法人化」と「自衛隊」なのである。

## 他大学の学生運動

この間行われた、国公立大学体育大会の試合会場となつている一橋大学の机の上に並べられていたチラシのうち幾つかを拝借し読ませてもらう。

もらつたものの多くはサークルの勧誘のチラシ、生徒会選挙のチラシ(どうやらこの大学の学生は相当大学内の自治関連に興味があるらしい。大学機関、大学所属の委員会、サークル等の多数団体が印刷・発行をしている)であり、これらが全体のおよそ七〇パーセント、一〇パーセントがその他の委員会、サークル関連の機関紙が占めていた。そして残りの二〇パーセントが学生運動系のビラ、通称「アジビラ」である。(そつういは電通大でこのようなチラシは見ることがない。これは東工大も含め理系のみのおける全共闘時代以来からの特徴と言える。)

一日に明治公園にて行われた集会の参加要請のチラシであつた。見出しが「全ての大学人に五月二一日明治公園集会への参加を訴えます!」リードが「三・二〇の成功をステップに更なる飛躍を! 戦争反対! 『法人化』、大学自治・学生自治破壊を許さない!」である。ここで幾つか補足をしておかねばなるまい。

一、五月二一日とは金曜日であり筆者が一橋大学に来たのは翌日二二日である。つまりこの記事を見たときは既に集会後であり、結果はわからない。

二、明治公園とは千駄ヶ谷の近くにある公園で、広いスペースを有し、よくフリーマーケットやチャリティーコンサートが行われるところである。ちなみに千駄ヶ谷近辺には国立競技場、神宮球場等があり、この近辺で高校時代を過ごした筆者とその友人は「スポーツとデモ行進の町千駄ヶ谷」と揶揄していた。

その中で特に多かつたのが五月二

三三・二〇の飛躍とは三月二〇日に日比谷公園にて行われたという「イラク戦争開戦一周年の日比谷大集会」で六万人が集まった(らしい)ところからきている。

さて読者はこのリードを見て何か気づけなかったであろうが、実はこの集会「戦争反対」と「法人化」の両方の反対が混ざり合っているのである。

その理由は読み進めていくうちに分かる。この集会の代表である二人の大学生と一つのサークルの主張曰く、『有事法』は戦争国家化であり、『法人化』は国家主義的な改革・再編でありこれもまた戦争国家化である。また曰く、『有事法制下では大学は「指定公共機関」として動員対象となっていて戦争国家化である」とのことである。よって「この二つの反対は共通の反対である」と言われると「なるほど!」と言わざるをえなくなってくる。そうなるも今度は読者の方から「では貴様は学生運動に賛成なのか?」と問われることになる。私は「別に」と返事する。

実はもう一つ気がついていただ

きたいことがある。このチラシを見る限り一つもいわゆる「極左」というものがないのである。理由は簡単、当時と違って共産圏がその後どのようになっていたかを我々は把握しているからである。

### 充実した 学生生活のために

「では何故大学生は学生運動を行うのか?」これも簡単、要するに人というのは(特に血気盛んな大学年齢層は)何らかのきつかけで騒いみたくなるのが人の性というものである。この辺りは某BBSの俗に言う「お祭り」に近いものがあると思う。大学四年間という年月の間何に燃えるかは個人の自由である。勉強もよし、サークルもよし、アルバイトもよし、学生運動も(危なくなければ)よしなのはなからうか?

(文責 渡辺)

## こうい

知っても**特**しない

鉄の話

鉄の歴史(こが)

「鉄」この単語を聞いて皆さんは何を思い浮かべますか。原子番号26番、沸点二七五〇、融点一五三五、密度七・八七グラムなどが真っ先に浮かんだあなた、0点です。もっと考えてください。私が求めているのもっとひねりのきいた「粋」な答えです。

冗談はさておいて、鉄は古代から人類が利用してきた鉱物のひとつです。最初は隕石からわずかに取れる鉄、いわゆる隕鉄が利用されていたため、とても希少価値が高かったのですが、大地から鉄を取り出す製鉄法が発明されたことにより、それまで金属器の中心だった青銅を押し付け、一気に普及しました。

現代においても、鉄鋼業というのは工業すべての根幹を支えるものと

して、重要視されています。

製鉄業(こが)

さて、鉄鋼業において利用されているのは、コークスを用いた近代的(西洋)製鉄法ですが、これとは別に日本には、たたら製鉄と呼ばれる製鉄技法が伝わっています。何年か前に某アニメ会社が、これを題材にした映画を出して全国の老若男女からがっぽり稼いだ挙句、一部の集団をハアさせていた気がします。確か名前はものゝ……。

そんなことがあったおかげで、認知度自体は幾分上がったのですが、中身まで知っている人は少数でしょう。

製鉄は、山から鉄を切り出す作業から始まります。その作業は、日本で産出する鉄が鉄鉱石ではなく粒状、いわゆる「砂鉄」であるために「かなな流し」という方法で行われます。まず、山の高いところからふもとまで用水路を造り、切り出した鉄を泥や粘土ごと水に流します。用水路の途中には何箇所かため池が作られており、比重の重い

砂鉄だけが底に沈み回収できる、という仕組みになっています。砂鉄はその純度によっていくつかに分けられ、純度の高いものを「真砂」、純度が低く、赤っぽい色をしているものを「赤砂」と呼びます。

次に製鉄です。原料は砂鉄と木炭のみ。この木炭が近代製鉄のコークスに当たります。製鉄に使う「炉」はその大部分が粘土で作られます。炉には「ふいご」から風が送り込まれ、これにより炉内の温度が上昇します。ふいごは大きな板のペダルを複数人で踏んで風を起こします。これが「たたらを踏む」という作業であり、「たたら製鉄」の語源ともなっています。口で説明するのは簡単ですが、この作業、実際はとてつもない重労働です。炉のサイズと入れる材料の量にもよりますが、数日から場合によっては十日以上。その間常に炉の温度を一定以上に保たねばなりません。構造上の理由からふいごは炉のすぐそばに設置されます。燃え盛る炎のそばで力いっぱい風を送り続けなくてはならないので、

また、製鉄の進み具合によって、

細かい温度調節も必要とされますし、それに伴って砂鉄を投入するタイミング、木炭の補充の目安なども決まってきます。これらはそのたたら場（製鉄所をこう呼びます）でもベテランに当たる一部の人間にしかできないことでした。

最後に鉄を取り出すときですが、炉が大きいときは一部を、炉が小さいときは全部、炉を壊して取り出します。取り出された鉄は「鋸けら」と呼ばれ、近代製鉄法で作られる鉄よりも粘りがあり、特に刃物を作るのに向いています。硬く、強く、折れにくく、また切れ味のすばらしい刃は、たたら製鉄によって作られた鉄から生まれるのです。

### 鉄の行方とか

品質のあらゆる面で勝っていたたたら製鉄ですが、大量生産に不向きであるという欠陥を持っていたために、近代製鉄法の普及とともに廃れていきました。現在では岐阜県や島根県などにその一部が残るのみとなっています。

（文責 堀江）

## 十月に教務課で泣かないために

さて、そろそろ今年最初の期末試験も迫ってきているわけですが、勉強の進み具合はいかがでしょうか。この万人（一部例外あり）に満遍なく降りかかってくる定期試験ですが、いくつが押さえておかなければいけないことがあります。主に一年生向けの内容ですが、二年生以上の人も確認と思っって目を通しておくといいと思います。

試験会場に入れるのは  
開始二十分後まで

つまり、一限に行われるテストであれば九時二十分、二限ならば十一時がボーダーラインということですが。朝もギリギリの時間まで勉強したからといって、締め出しをくらってしまっってはいくら努力しても結果は出ません。特に遅刻常習の人はご注意ください。いつも同じ感覚で教室に行ったら試験監督に首を横に振られ、もう一年必修科目という惨劇は結構普通にあります。

学生証を忘れずに

学生証を忘れると、教務課へ仮学

生証を発行してもらわなければならなくなり、無駄な時間を使ってしまうこととなります。「いつも持ち歩いてない」「どっかいった」という人は対応しておいた方がいいでしょう。また一日に複数の科目のテストを受ける場合もご注意ください。試験会場に学生証を忘れて取りに戻るといっても時々あります。

案外気が回らないこれらの落とし穴をしつかり押さえ、そつなく一週間の試験日程を消化すれば二ヶ月間の夏季休業が待っています。お互いががんばりましょう。

（文責 岩城@遅刻常習犯  
+微積二回目）

## 編集後記

早いもので、前期も残り一ヶ月足らずとなりました。そろそろレポートがドバツと出されテストが間近になってきて焦り気味になりますね。かくいう自分もレポートを六つ抱えて四苦八苦しています。友人に「君っていつもいっぱいいっぱいだね」と言われました。別に好きでやってるわけじゃないんだよ。